

公務員制度改革を進めるに当たって

2008年7月25日

この改革は、国家百年の計である。

我が国の官僚機構は、かつて、我が国の牽引役として重要な役割を担った。しかし現在、残念ながら、国民からの信頼は低下し、また、内部で働く公務員の間では閉塞感が高まる一方である。

これを再構築し、我々の将来世代に、国民の信頼に足る、優れた官僚機構を残すことが、我々の責務である。

そして、官の世界を変えることで、民の世界も変わり、我が国の社会全体が活力を取り戻すことにつながる。

今回、事務局で仕事をともにすることになった職員各位には、この改革が国の将来のため如何に重要かを胸に刻み、日々の職務に取り組んでもらいたい。

また、特に、今後長く役所で勤務する可能性の高い若手職員諸君には、現状をこのまま放置してよいのか、将来の職場をどう変えたいのか、そのためにどう改革したらよいのか、常に自ら問い直しつつ、志をもって、職務にあたってほしい。

以上を踏まえ、以下五つの原則の下、改革に取り組んでもらいたい。

1、役所の旧来の意識・流儀にとられない。

・「国家・国民よりも、出身省を向いて仕事をする」、「年次主義や官尊民卑」、「官僚が政治をコントロール」といった、旧来型の意識は一切捨て去る。

2、民間の発想・創意工夫を徹底して取り入れる。

- ・民間出身の事務局員には、役所の流儀に馴染むのではなく、役所に民間の発想・創意工夫を持ち込んでほしい。役所出身者に遠慮することなく、思い切った提案・議論をしてもらいたい。

3、若手職員に主体的に参画してもらう。

- ・若手職員は、この改革の最大の利害関係者。単なる作業員ではなく、主体的に提案・議論をしてもらいたい。

4、徹底した議論を経て、徹底した改革を実現する。

- ・基本法に定められたミッションを最低限こなして良しとするのではなく、この際、徹底した改革を行う。
- ・運用段階での骨抜きを防ぐため、公務員が真に国民のために働くよう具体的なインセンティブを組み込む。

5、常に国民の目線で改革を進める。

- ・常に国民の声に耳を傾ける。(初期段階から国民の意見募集等)
- ・検討プロセスは透明にし、常に国民に選択肢を提示し、最終判断は国民の目線で行う。(各種会議の完全公開等)